22

アジア沿岸域の環境開発をめぐる動向

—UNESCO/MAB 計画プログラム　地域セミナー 'Ecotone VI'に参加して —

（1997年 3 月18—21日　中国・北海市）

鈴　木　邦　雄

1997年 9 月

横浜国際開発研究第2巻第2号抜刷

アジア沿岸域の環境開発をめぐる動向

—UNESCO/MAB 計画プログラム　地域セミナー 'Ecotone VI'に参加して —

(1997年 3 月18—21日　中国・北海市)

鈴　木　邦　雄

はじめに

東・東南アジアの沿岸域は，急速かつ大規模に行われてきた各種開発によって環境破壊が深刻となっている．特に最近10-20年，グローバルにあるいは地域社会で，多くの問題が顕在化してきた．例えば，エビ養殖場の乱開発，マングローブ林の消失，水産資源の枯渇など生物資源に関するものや都市化，産業立地化による環境悪化である．その深刻さと対策の緊急性とから，積極的かつ多様な対応が当事国では行われている．しかし，対応レベルは国や地域によって大きく異なっている．

筆者は，本年 3 月に国連ユネスコの「人間と生物圏（MAB）計画プロジェクト」による地域セミナーに参加した．この地域セミナーへの参加は 4 年ぶりであった．セミナーにおける発表と討議の内容から，沿岸域の環境開発を巡る東・東南アジア諸国の動向を伺い知ることができた．その一端を今回報告する．

セミナーの内容

国連ユネスコの MAB 計画プログラム[1]は，沿岸生態系の保全と持続的利用すなわち海と陸の 2 つの生態系が接する環境；Ecotone をシリーズ・テーマとして1992年以来 5 回の地域セミナー（東・東南アジア地区）[2]を開催している．去る 3 月18-22日（1997年），中国・北海市において連続セミナーの第 6 回が開催された．今回のセミナーのテーマは「Zoning and Multiple Resource Use Schemes for Integrated Coastal Resources Development Planning and Management」であり，エクスカーション 1 日を挟んで 4 日間の日程で行われた．

セミナーは，主催者の中国ユネスコ国内委員会，中国国家海運局に加えてユネスコ地域事務所（ジャカルタ）と日本 MAB 国内委員会（代表：有賀祐勝・東京水産大教授）などの挨拶によるオープニングに始まり，5 テクニカル・セクションで18題の発表と熱心な討議が行われた．参加は，タイ，バングラディシュ，ベトナム，フィリピン，インドネシア，香港，韓国，日本（有賀教授と鈴木の 2 名）と地元中国から政府関係者，国際機関専門家，沿岸管理担当者，大学や研究機関の研究者，NGO など多岐にわたっていた．

基調報告は Dr. Zakir Hussain（バングラディシュ，IUCN）による「Current Status of the Management of Mangrove Forests in Asia」，Dr. Han Nianyong による「中国の生物圏保護地域ネットワーク」であった．テクニカル・セッションでは，韓国，フィリピン，タイ，中国から統括的沿岸管理計画（ICM）とゾーニング，日本（鈴木），中国からマングロ

ーブ等沿岸生態系における生物多様性の評価基準，ベトナム，香港，中国から沿岸生態系の持続的，多元的および伝統的利用の実績などの報告がなされた．

東・東南アジアの参加各国は，生物多様性を保全するための自然環境保全地域のゾーニングおよび社会経済的側面や環境的・生態的側面と協調する統括的沿岸環境のマネジメント（ICM；Integrated Coastal Management）に熱心に取り組んでおり，ICMによって沿岸域生態系の持続的かつ適正な利用と保全が可能であるとの認識を持っていた．特にフィリピン（Philippine Council for Aquatic and Marine Research and Development）や韓国（政府の海洋研究所）からは，社会科学的評価手法を取りいれたICMを推進しているとの報告がなされた．また，ベトナムと香港からは，「生物の活動範囲・影響域は個々の国・地域に限定されているものではない」というバイオ・リージョンの考え方から，国際的レベルでのマングローブ・湿地生態系の保全と再生，渡り鳥等に関する情報・支援ネットワークを強化する国際協力プロジェクトの推進を求める発表があった．

第3日目のエクスカーションでは，約100年前にマングローブの苗木が植えられ，現在では素晴らしい樹林が広がっている山口Shankou自然保護区を訪れた．雨の中ではあったが，100年をかけて再生・創造されたマングローブ生態系への高い評価と技術的課題に関する熱心な討議が現場で行われた．

考　察

筆者は，過去に開催された地域セミナーのうちEcotone I（1992, クアラルンプール）およびII（1993, ジャカルタ）に参加している．今回の地域セミナーと比較すれば，1992，3年のセミナーでは，Agroforestoryに代表される複合型生物生産様式（植林地に野菜を植えたり，魚やエビの養殖とマングローブ育成を併用することによって収益性を高める）に関しての講演や論議に集中していた．Ecotone IVおよびVでは，当時の沿岸域自然環境で特に問題となっていたマングローブ生態系劣化の現況報告と保全策がテーマであった．しかし，今回のセミナーでは，ICMや環境評価手法，環境復元に討議の多くが集中している．アジアの国々では，人間と生物圏との歴史や現実を踏まえる時，原生自然をそのままの状態で保護する概念に加えて，人間と自然との多元的な結びつき（沿岸生態系は特に）にサステイナブル・ディベロップメントのノウハウを求めている．今回，その認識を実践する動きとしてもICMあるいはゾーニングが推進されているとの印象を深くした．

沿岸域環境計画の目的は，ICMの基本的考えでもあるように，「対象となる沿岸域における広義の自然環境を資源として位置づけて，持続性および効率性を持たせた資源管理システムを如何に構築すべきか」と定義することができる．したがって，貴重な自然・生物を保護・保全することと同じレベルで，Boaden（1985）の指摘する‘資源の有効利用’も最終目的となる．ところが，対象となる環境資源は，Cloke & Park（1985）が指摘しているように，必ずしも実体のあるものだけではなく，文化的・抽象的な側面をも含んでおり，しかも，社会的，政治的，経済的および学問的分野からの影響を受けている．O'Riordam（1971）は，資源管理計画に織り込むべき学問分野として（1）環境上の妥当性(生態学)，（2）社会的適合性（社会学），（3）運営的自由度（法学・管理科学），（4）戦略的手段（政治学），（5）経済的実行可能性（経済学），（6）技術的可能性（理工学），（7）道義的実行可能性（倫理学・美学）をあげている．Dr. Stefano（UNESCO/Jakarta）は，今回のセミナーで，沿岸域の環境システムは海（洋）システム，社会システム，沿岸システム，マネジメント・システムの4サブシステムから構成されており，沿岸域をマネジメ

ントをする機関は，科学的根拠と社会規制を踏まえた環境保全と地域開発との調整を図るのが仕事であるとしていた．Dr. Hak-Bong Chang（韓国）とDr. Kamron Saifuk（タイ）の発表では，ICMの中身が沿岸域を対象として社会開発のための開発規制を織り込んだゾーニングだけとも受け取れる内容になっており，そのゾーニングの環境的・生態学的整合性への論及を避けていた．

Dr. Foo Pai Man（WWF香港）は，米埔Mai Po地区で伝統的に行なわれてきた複合的利用のエビ養殖場基塘Gei Wai方式の紹介と，その環境マネジメントでNGOであるWWF香港による関わりを発表した．また，フィリピンNGOの報告（Dr. C.M.C. Nozawaほか）はNGOと政府機関スタッフとの共同で行なわれているICMプログラムに関してであり，それは国内6研究機関との連携で管理計画が策定されているとしている．これら2件のプロジェクトは共通して，政府からの援助を受けたあるいは連携している民間団体が沿岸域の一部保護地域を管理し，トレーニングと教育プログラムとを抱き合わせで行なっているものである．途上国おける沿岸域環境保全策として評価できるものであった．

注

1) MAB計画プログラム（Man and the Biosphere Programme）は，ユネスコの国際共同事業の一つであり，1971年にパリのユネスコ本部にその事務局が置かれている．2年毎に開かれる国際調整理事会（ICC）によって運営方針が決定されている．このプログラムは，生物圏における天然資源の保全と有効利用及び環境保全に関する諸問題解決に資することを目指し，国際的諸事業を実施することを目的としている．
2) 地域セミナー：正式名称は，East and Southeast Asian Regional Seminarで，ユネスコから東・東南アジア14カ国へ参加招聘が行なわれている．開催のための資金には，日本からユネスコへの信託金が使われている．これまでに，MICE（Man's Impact on Coastal Ecosystem）をテーマとして5回，（Coastal）Ecotoneをテーマとして6回，その他をテーマとして2回開催されている．

引用文献

Boaden, P. J. S. (1985) *An Introduction to Coastal Ecology*. 218pp. Blackie & Son Limited.
Cloke, R. J. & C. C. Park (1985) *Rural Resource Management*. Croom Helm.
O'Riordam (1971) *Perspective on Resource Management*. Pion, London.

［すずき くにお 横浜国立大学大学院国際開発研究科教授］